

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500675		
法人名	(有)介護センター田中		
事業所名	グループホーム渚園		
所在地	三重県津市柳山津興382番地の4		
自己評価作成日	平成 21年 9月 24日	評価結果市町村提出日	平成21年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470500675&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 10 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家事をしたり、畑で野菜や花を作ったり、各自が役割を持つことで自信を取り戻し、介護を受けるだけでなく、自分の生活をしていただくサポートをしたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中庭を囲んで2ユニットになっているグループホームで、相互に交流もできる。建物は明るく開放的で、室内の装飾にも心と工夫が随所に見られる。また、スタッフにも入居者にも活気があり、ともに協力し合って、家庭的な雰囲気生活している事業所である。開設11年目の経験豊富なグループホームであり、それらの経験を活かして、自己の事業所のみならず、県下の福祉サービスの向上を目指し、リーダー的存在で活躍しているところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になっても地域の中でゆったりと暮らせるように、共に支え合っていく事を理念にしている。	理念に、「風と共に生きる」をサブタイトルとし、利用者が自然な形で生活していくことを目指している。利用者のニーズに対し、常に理念に立ち返って考え、個別支援を実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に出かけ地域とつながっている。保育園と交流を持ち招待されたり、招待したりしている。	事業所は、散歩や畑作業の手伝い等、近隣住民が気軽に立ち寄れる場所となっている。また、利用者が出かけるほかにも、事業所での催し物への参加を呼びかける等、日常的なつながりがもたれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の活動で認知症についての講師をしている。中学校の職場体験などを受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、地域とどうつながっていくか等話し合っている。	昨年度は年に3回、今年度は現在で1回開催となっている。自治会数の多い地域であることから、参加者の調整上、開催頻度が減少傾向にある。	まずは、3か月に1回程度の定期的な実施を期待したい。また、意見交換を行ないやすい議題の工夫も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらったり、他のグループホームの運営推進会議に出席して意見交換している。	市町村とは電話で連絡をとるようにしている。また、管理者が三重県グループホーム協会の会長であることから、他の会議に参加して情報交換する機会も多く、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしてはならない事をよく理解している。日中の玄関の施錠もしていない。	日中、ドアは開放されており、自由に出入りができる環境になっている。目配りで居場所の把握を行い、本人の気持ちを重要視している。拘束をしないことは、当たり前で自然なこととしてスタッフの中に浸透している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待をしてはならない事をよく理解している。管理者は虐待が起こっていないか注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を使う人はいませんが、成年後見制度について勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、事業所の考え方や取り組みを説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や行動から想いを察し、職員間で話し合い気持ちに添えるよう努めている。また、家族の要望や意見を真摯にうけとめている。	定期的に面会に来てもらう機会を設けており、家族からの意見を聞いている。また、遠方の方については、電話やメールでも連絡をとり、出された意見や要望は、ミーティングで検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングと、日々のミーティングで、職員の意見を聞くようにしている。	定期的及び随時のミーティングが行なわれ、話しやすい雰囲気の中で活発な意見が出されている。提案も実践につなげられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得を支援し職場内で生かせる環境作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けたり、内部勉強会、新人のOJT体制による指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学や自習を受け入れている。三重県グループホーム連絡協議会に加盟し連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面接で、家族や本人の不安などを時間をかけて聴き、園に何を求めているのかを理解し安心してもらえるよう話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が今困っている事、本人が苦しんでいることをよく聴き、利用までの過ごし方の相談にのっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話をよく聴き本人にとって今何が必要か話し合い、ケアマネージャーにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人が出来るように支援するという事を基本に考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の生活、状態を伝えるとともに、本人にとっていかに家族の支援が大事か話をし、協力をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や親戚の方々に訪問してもらったり、家族と家に帰ってもらったり、馴染みの美容院に行ってもらったりしている。	近所にある自宅を散歩コースに入れて立ち寄り、行き着けの美容院にもスタッフが付き添って通えるように支援を行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、部屋に遊びに行ったり、部屋でお茶を飲んだり、関係を築いてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家に帰られた方は、ケアマネジャーと連携をとって相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の言葉の中に希望や想いがいか注意を払っている。	センター方式のシートの思いの欄に、直接、家族に書き込んでもらっている。利用者からは、日常の会話の中で聞くようにし、聞き取れない部分に関しては、発した言葉や表情、仕種から汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の利用者シートを家族、知人、本人に協力してもらい作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを知り、出来ること、出来ないことシートをつくり本人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の思いを盛り込み、日頃から職員の意見を聞き介護計画を作っている。	面会時や通信連絡時に把握した、家族の思いや本人の思いをケース会議で検討し、立案している。原則6か月毎の見直しをしているが、日々の状況、変化に注意し、その都度見直すようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌に日々の様子や、本人の言葉、身体的状況等を記録し職員間で把握しあっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況によって通院、買い物、自宅への送り迎えに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の事業の紙パンツの利用など家族に伝え利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による訪問医療を受けたり、入所以前からのかかりつけ医がいる場合は、通院時付き添い連携をとっている。	毎月2回、協力医による訪問診療を受けている。入居前にかかっていた医療機関へも、スタッフが付き添って通院できるように支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の体調の変化を見逃さず、看護職員に伝え、医師につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の情報を医療機関に提供し、事業所で対応可能なら早期退院もうけ入れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意志確認書を作成し、本人、家族、医師、職員が話し合いながら、取り組んでいる。	「医療対応確認票」の書式を活用し、入居時と必要な時期に応じて話し合いを持つようにしている。まだ、見取りのケースはないが、対応する体制は整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医に連絡をし、指示を得るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練によって、避難経路を確認している。	防災マニュアルや避難経路についてミーティングを行い、常時把握できるように努めている。年1回、事業所内で防災訓練を行なう他、自治会の訓練にスタッフが参加している。	夜間を想定した防災訓練や、地域との協力体制作りについて、検討されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや誇りを守るよう心がけ、日頃から言葉づかいにも気を配っている。	声かけ、入浴時や排泄時、入室時等の対応に、本人の自尊心やプライバシーを壊さないように慎重に取り組み、細かい部分まで周囲に配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いろいろな場面で、本人が意志決定出来るようにサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調を配慮しながら、その人に合った対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向に配慮し、月1回化粧教室を開きおしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事を作り、盛りつけ、後かたづけをしている。	食材の買い物から、下準備、盛り付け、片付けに至るまで、利用者それぞれの力に合わせて役割分担し、スタッフと一緒に楽しみながら行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事の摂取量を把握し、体重の変化、体調を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを本人と一緒にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にパットや紙パンツにならないように、トイレでの排泄を基本に考えている。プライドを傷つけないように配慮している。	夜間のみ紙パンツを使用することもあるが、時間誘導や尿パッドでの対応を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操で体を動かしたり、水分補給を十分とるように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	熱い湯が好きな人、シャワー浴だけの人、ぬるい湯が好きな人、仲の良い人同士で入りたい人など対応している。	2ユニット交代制で、入浴日は1日おきの午後となっており、入浴のない日においても、清拭やシャワーでの対応を行なっている。また広い浴槽で、利用者同士が楽しみながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に重点を置き、生活リズムを整え夜ゆっくり休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをファイルし、職員は把握している。服薬時は手渡しし、服用できたか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや、洗濯、掃除、畑仕事など役割を持ち、自信をつけてもらうよう支援をしている。年1回入所者と職員と家族で1泊旅行に行き楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日業は、散歩に海まででかけたり、花見や外食はど、楽しんでいる。	近所への散歩、買い物、外食の他、家族との外出や外泊を行えるよう支援している。心と身体の両面からの健康に配慮し、日常的に外を歩くことを大切に考えて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を管理できる人は持ってもらい、家族の意向で預かる人は事業所が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に家族や友達に電話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や絵を飾り、居心地のいい空間作りを工夫している。	木造家屋の暖かさと、掃除の行き届いた清潔感がある。吹き抜けの天井と大きな窓、広い居間兼食堂には、明るさと開放感があり、常に人の集まりがある。絵や生け花等、利用者自身の作品が飾られ、中庭には季節の花が咲いており、居心地よい生活空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下にベンチやイスを置き、一人で過ごしたり、仲のいい人同士がくつろいだし出来るスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具を配置したり、写真などを飾ったりして、居心地のいい工夫をしている。	居室には、持ち込んだ家具が本人の使いやすいように配置され、また好みに合わせた飾り付けが工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけたり、玄関にスロープをつけたり、お風呂を入りやすいように工夫している。		